

平成 23 年度 事務事業事後評価調書 (平成 22 年度事業)

整理番号 14 - 1

1 事務事業の表示

■ : 該当

事務事業名	消防団活性化事業							
評価者	担当課名		消防	担当係名		庶務係		
	管理職	職名	支署長	作成者	職名	係長		
		氏名	豊田 通敏		氏名	安本 明志美		
事業の概要	消防団員の加入促進を図りながら、訓練・研修を重ね、災害時において町民の生命財産を守るべく消防団員の活性化を図る事業					全体計画 (平成 20 年度 ~ 24 年度)		
						事業費	国・道支出金	千円
							地方債	千円
							その他	千円
							一般財源	21,740 千円
事業費計	21,740 千円							
実施方法	☒ 直営 ☐ 民間委託 ☐ その他 ()							
第 5 期 総合計画 (前期) ■ 登載事業 ☐ 非登載事業 優先度 B								
事業の位置付け	政策目標	4	うるおい・雄武 ~ 生活環境・生活基盤の充実 ~					
	基本施策	19	消防・救急・防災体制の強化					
	単 位 施 策	1	災害予防対策・危機管理対策の強化					
	事務事業の種類	■ 自治事務		法定受託事務				
	その他計画・根拠等	消防力の整備指針、消防法						
事業費	実施年度	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(見込)	24年度(計画)		
	国・道支出金	千円	千円	千円	千円	千円		
	地 方 債	千円	千円	千円	千円	千円		
	その他財源	千円	千円	千円	千円	千円		
	雄武町負担額	3,589 千円	3,832 千円	3,814 千円	4,900 千円	4,300 千円		
	合 計	3,589 千円	3,832 千円	3,814 千円	4,900 千円	4,300 千円		

2 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	団員(町民)	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	
【抱える課題やニーズは】	若年層の新規入団を望んでいるが、地元での就職が減少しているので、消防団入団の魅力をアピールすることが、課題である。	消防団員数の確保、訓練等による組織の活性化	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	消防団活動が活発になる。	消防団員数	目標年度 24 年度
			目 標 値 110 人
			実 績 値 104 人
			達 成 度 94.5 %
【その結果、どのような成果を実現したいか】 成果 = 目的	・消防団員数の確保 (男性団員100名、助成団員10名) ・消防団員の技量向上	訓練回数	目標年度 22 年度
			目 標 値 6 回
			実 績 値 6 回
			達 成 度 100 %
内 容(どのような手段で何を行ったか)			
広報活動	雄武町広報誌及び、チラシ等の配布		
呼びかけ	団幹部から、協力事業所等への呼びかけ		
被服支給	新入団員に被服を支給(災害現場活動をするための特殊被服) 22年度 2名入団		
福利厚生	毎月、消防新聞を購入し配付		
訓練費	災害を想定した訓練時に出勤費を支給		

3 事務事業の評価(Check)

(1) 事務事業の必要性(町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	☐ 義務的なもの	町民の生命財産を災害から守るため、各種訓練・研修を通じ団員の技術の向上を目指す上においても、必要とされる。また、団員の中も高齢化が進む中、若年層の新規入団も必要とされる。
必要 / 概ね必要 / 課題あり	☐ 全部 ☐ 一部	

(2) 事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成	訓練等技術向上を目指すべく、各種研修会の出席率についてはほぼ達成されている。団員数については、110名定員のところ104名と下回るが、目標年度24年度に向けての22年度高年齢者退団に伴う若年者2名の入団があったことは、目標がほぼ達成されたものとする。
有効 / 概ね有効 / 課題あり	☐ 達成 ☒ ほぼ達成 ☐ 下回る	

(3) 事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	研修日数を削減し、訓練回数を増やしたことにより、団員の技術や精神面が向上し、その結果、災害現場での活動がスムーズとなり時間短縮につながったものとする。また、団員確保に向けて町内各企業に団員入団推進協力を呼び掛ける。
効率的 / 概ね効率的 / 課題あり	☐ 事業費抑制 ☐ 人員削減 ☒ 時間短縮・作業軽減 ☐ その他	

(4) 事務事業の公平性

公平	判断の理由	事業は全町民を対象とした事業により、公平と考える。
公平 / 概ね公平 / 公平でない	☐ 受益者負担がある ☐ 受益者負担がない ☐ 受益が一部に偏る ☒ その他	

4 総合評価(A～D)

- A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
 B: ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
 C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
 D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
定員数110名を24年度までに目指している中、22年度は高年齢者の退団に伴い、若年者の入団2名はほぼ目標が達成されたものと言える。この結果出席率が向上した。		

今後の展開方向 (Action)		
継続 / 現状維持		
町民の防災意識の高まりや町としての防災体制の重要性を考えると、今後も継続していく必要がある。また、女性消防団員の増員を図る。		
*展開方向の区分 ○ 継続 / 現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○ 終了 ○ 休止 ○ 廃止		

5 その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--